大学院教育に必要なもの

川上 康
臨床医学系助教授

大学院教育と学群教育との違いについて常日頃と考えていたが，前号の特集「大学院教育を考える」によせられた原稿は皆，力作で教えられるところが大であった。牧野先生は，大学院生に必要なものとして学群学生に必要な知的好奇心，意欲，知識に加えて研究能力をあげている。萱野先生は，大学院生に既に研究者としての側面を求めており，論理的思考をもつ学生のみが淘汰される中で生き残り研究者としての道を歩むことになると書かれている。鎌形先生も大学院生にとって必要な資質について，高い見識を要求されている。大学院教育は優れた先端研究あるいは芸術創作を造りだす根幹なのかもしれない。また大学院教育では，教えてもらうというより，優れた研究室に身をおき，周囲から物事の考え方を吸収するという昔の職人的な性質があるともいえよう。

吉田先生は，大学院は研究するところであり，知識より研究経験が重要であるとされている一方で，その分野の基礎をなす知識習得の重要性を述べられている。しかし専門性の高い研究と広汎な知識習得を限られた時間で達成することは難しく，効率よく知識を習得する技法を学ぶことが大切なのであろう。田仲先生が書かれたように，分野による教育方針の違いは確かにあり，多様性に即した柔軟な教育が効率的な教育法であろう。例えば芸術分野において安藤先生は，芸術教養講座に終わらずいかに高度職業人を育成するかが重要であると述べている。宮本先生は，大学院教育のカリキュラムおよび評価機構の整備が重要と唱えている。教育は個人の資質に負うところも大であるが，効率良い教育制度の構築がきわめて重要であると感じた。村上先生が述べられている多くの研究機関との連携システムによる共同研究・共同指導は優秀な大学院生を育てる教育システムとして効率的であろう。

大学院教育は，学群教育よりも，学生の自主性が重んじられ，良い環境を生かせるかは学生次第であり，幅広い視野を身につけることで，好奇心と向上心によって動機付けされた努力が必要とされる。しかし，良い環境の整備が必要不可欠なのであろう。

（かわかみやすし　臨床病理学）